茶の間のかんそう

本の話しでもちきり

今泉小父兄　森　照代

我が家の本読み大会は、いつも三年生の長女がリーダーで始まります。私が「読書大会でも始めたら」といいますと、一年生や五才になる妹たちを集めて静かに読み始めます。五才になる子までが、上の子どものまねをしてだまってページをめくりながら楽しそうに本読みに加わっています。

家で次々買って与えた本はすっかり読み終ったので、受け持ちの先生から借りてくる図書館の本を読むことがとても楽しいらしく、一冊読み終ると「おかあさん、この本おもしろかったよ」「この本とてもよかったよ」とか一応の説明をしてくれるようになり、とてもいい事だと思っています。家庭にいても、雑用におわれ、本を読む時間があまりないので、せめて子どもの話し相手にと思い「どんな本だったの」とつとめて聞くようにしています「本を静かに読むことは自分のためによい事だからいい本をたくさん読むことにしようね」と話し合っています。このような読書運動は、いつまでも続けてほしいと思います。

いまでは「私の番」と

須津小父兄　深沢良子

「茶の間ひととき読書運動」がはじまり、夕食後のひとときに学校での出来事や、きょうあったことなどのお話しのほかに読書が加わりました。

ひとに本を読んであげたり、読んでいただいたりして、聞く態度もできてくると思います。

二人のこどもが「私の番、私の番」と得意になります。それも長つづきはできませんでしたが、読書運動期間中は、親に聞いてもらえなくても、一〇分でも二〇分でも、読むようになりました。

今では、夜ねる前には必らず本を手にするようになりました。読む習慣がついただけでも、収獲だったと思います。

運動期間がすぎますと、またくずれていくのではないかと心配になります。時どき読書をするような機会を作っていただきたいと思います。

一番難かしかったのは、親と子がいっしょの時間を持つということでした。

なかなかうまくとり合うことができませんでした。これからは、できるだけこどもと共通の時間をもつようにしたいと思います。

茶の間ひととき読書

"茶の間ひととき読書運動"がさいきん各地で行なわれています。

富士市では昭和四十年から、市立中央図書館が中心となって、吉原地区で実施していますが、ことしから富士、鷹岡地区でも実施することになりました。

そこで、この運動はどのように行なわれるか、中央図書館に聞いてみました。

富士、鷹岡でも実施

小学3年生が対象

「茶の間ひととき読書運動」は、こどもに良い本を読む習慣を身につけさせるとともに、一冊の本を家族そろって読むことによって心のふれあいを生み、家庭生活の充実をはかるために行なわれるものです。

この運動は、吉原地区では市立中央図書館を中心として、昭和四十年から小学校三年生を対象に行なってきましたが、ことしから富士、鷹岡地区でも行なうことになりました。

中央図書館では、昨年一年間の運動の成果を先生、児童から聞き「茶の間ひととき読書運動のあゆみ」にまとめました。

それによると、読書するのが好きになった。家族そろって話し合えるようになった。物事をよく考えるようになった。表現力がついてきて、一つのことをくわしく書けるようになった。質問が多くなり、物事を追求する態度が身についてきた。辞書をよくひくようになったなどの良い点があげられています。

問題点としては、本を読みはじめると夢中になってしまい、用事をいいつけても聞かない。母親が忙がしくて本を読んでいるひまがない。仕事の時間とぶつかって、一緒になって話し合うことができないなどの点があげられています。

ことしも、もっとも読書欲の強くなる小学校三年生二八〇〇名を対象にひとりに一冊づつくばれるように三三〇〇冊の本を用意して、各学校に配布をはじめました。

貸し出す本は、小学校三年生に適した本で、冒険小説、科学小説、伝記小説、童話などいろいろな種類の本が用意されています。

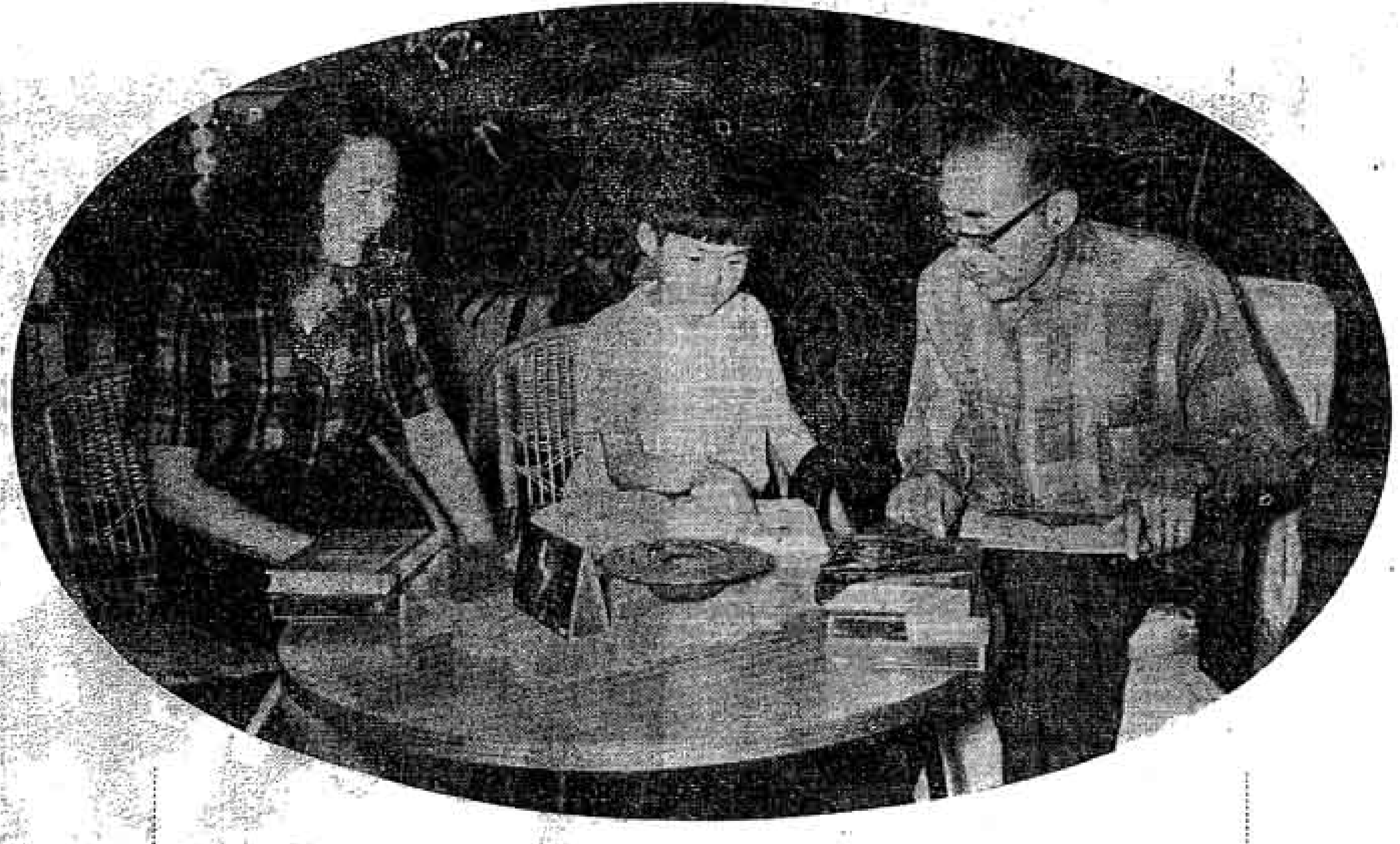
配布した本は一年間、各学校に貸し出され、借りた本を読んでしまった場合はクラス内で交換しあい、いろいろな本を多く読むことができるようにしてあります。

この運動は、まず家庭に本を持ち込むことからはじまりますが、どのように行なうかといいますと、夕食後のくつろいだ気分のときに茶の間で行ないます。時間は、こどもがあきないように一〇分から三〇分くらいの短かい時間で行ないます。こどもが声を出して読み家族のひとが聞いて内容を話し合います。

「茶の間ひととき読書運動のあゆみ」に、三年生だけでなく、四年生になっても、五年生になっても続けてほしいという声がありましたが、配布する本がたりません。ですから、各家庭で良い本をこどもに与え、本を読む習慣を引き続き身につけさせるように指導していただきたいと思います

なお、この運動はこどもとおかあさんだけで行なっても、なかなか長続きしません。家族みんなの、とくにおとうさんの協力がないとうまくいかないものです。

三年生以外のこどもをおもちの家庭でも、この運動を積極的におしすすめてほしいものです。



夕食後、読書でだんらんのひとときをすごす小野勲さん家族 ＝北滝川＝

こどものかんそう

父や母も読書好きに

元吉原小三年　久保田雅子

私の二年の時は、茶の間の読書がなかったので、いつも学級文庫の本をかりてがまんをしていました。

三年になって、三年生だけかりられるこの茶の間文庫ができて、とてもうれしかった。

さっそくかりてきて読みました。

はじめは、父や母といっしょに読んだり、話しあったりしました。

しかし、だんだん家中で話し合いが、できなくなってきてしまいました。

このわけは、一つは弟がテレビにむちゅうになっていて、一つは父がおそいこと、もう一つは、母がいそがしいこと。こんなわけで終わりのころは、私ひとりになってしまうこともありました。

でも、二年生の頃にくらべれば、本は多いし、ためになる本がいっぱいあるので、ひとりで読む時は、チョッピリつまらないけれども、ぜいたくはいえません。

この本は、聞くところによると、市立中央図書館からかりたそうです。私もこんど一度ぜひ行ってみたいと思いました。

今まで、あまり本を読まなかった私も、母に「本きちがい」といわれるようになりました。

弟もそれにつられてまだマンガやざっしだけれど、一週間に一さつは必らず買ってみています。

父や母もあまり新聞や本を読まなかったけれど、このごろはとてもよく読むようになりました。

茶の間の読書は、私の家の中をとても明るくしてくれたと思います。

私は、この茶の間の文庫にお礼をいわなければなりません。

一さつ一さつの本にお礼をいわなければなりません。

茶の間の読書、ほんとうにありがとう。

市民歌（ソノシート）をおわけします

新しい『富士市民歌』のソノシートを無料でおわけしますので、希望者は申し出てください。

- ■ 申込み期間　6月5日から6月20日まで（当日の消印有効）
- ■ 申込み用紙　往復はがき（復信はがきに住所、氏名を書く）
- ■ 配布数　500部
- ■ 申込み先　市役所市長公室企画課（吉原局区内伝法南河原3601の24）
- ■ 申込み多数の場合は公正な抽せんを行ないます

今月の納税

◆市・県民税　第一期

◆国民健康保険税　第三期

六月三十日までにおさめてください

交通相談室ができました

交通事故の示談、自賠法の請求手続き、交通関係法令の解説などの指導を行なっています。

- 場所は　本庁舎玄関
- 日時は　毎日午前8時30分から午後4時45分まで（日曜祭日は休み、土曜日は正午まで）